

## 未来を力強く生き抜く自立した生徒の育成をめざしたキャリア教育の実践

（社会や人とのつながりを意識した心づくり教育の推進）

板野郡 松茂中学校

一 はじめに

今を生きる子どもたちには、将来社会的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められている。この視点に立って日々の教育活動を展開することこそが、キャリア教育の実践の姿であると考ええる。



平成二十九年三月三十一日告示の

中学校学習指導要領総則では、「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつづ各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画

的な進路指導を行うこと。」のようにキャリア教育の充実を図ることが明記された。

また、平成二十八年十二月二十一日に取りまとめられた中央教育審議会答申においても「学校教育に『外の風』、すなわち変化する社会の動きを取り込み、世の中と結び付いた授業等を通じて、子供たちがこれからの人生を前向きに考えていけるようにすることや、発達の段階に応じて積み重ねていく学びの中で、地域や社会と関わり、様々な職業に出会い、社会的・職業的自立に向けた学びを積み重ねていくことが、これからの学びの鍵となる。」「学校と社会との接続を意識し、子供たち一人一人に、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育み、キャリア発達を促すキャリア教育の視点も重要である。」など、繰り返し「キャリア教育」が強調されている。

さらに、平成三十一年三月に徳島県キャリア教育推進指針Ⅱ「とくしまの未来を切り拓くキャリア教育」が策定さ

れ、今後五年間の徳島県のキャリア教育の方向性が示された。

これらを受け、本校の特色や地域の実情を踏まえつつ、社会や周りの人とのつながりを意識しながら、子どもたちの発達の段階にふさわしいキャリア教育を推進・充実させるべく、次に述べる様々な取組を試みた。

## 二 本校の実態

本校の通学区である松茂町は、徳島県の最も東に位置し、海に面した肥沃な三角州に水産業と農業を中心に発展してきた町である。近年は、徳島阿波おどり空港や高速バスターミナルを擁し、住宅開発や企業立地が相次いでいる。地域の方々は国際交流や教育に対して熱心で理解があり、PTA活動も活発に行われている。



運動会むかで競走

生徒数は三九五名の中規模校であり、教育目標に「人権を尊重し、自主、自律、創造、責任、奉仕の精神に富み、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい生徒の育成」を掲げている。

本校は、明るく活発で素直な生徒が多く、誰に対しても温かな気持ちで話をする事ができ、困っている友達がい

れば助けようとする姿が見られる。四月当初に行った人権アンケートでも仲間はずれやいじめに対し、生徒の大半はその対象となった生徒を支えていこう、現状をどうにかしようと考えていることが分かった。

しかし、日常生活を見てみると、知識としての考えはあっても、様々な問題が発生したときに、心で深く感じ取り、正しく判断し行動する実践力が育っていない現状がある。また、困難なことに前向きに立ち向かい、やりきる姿勢が十分でない生徒、さらに自分自身で考え行動していかうとする意欲に欠ける生徒もいる。その一因として、学校（集団）で自分の居場所を見つけられず、「自分に自信のもてるものがない」と思うなど、他との関わりの中で、共に成長していこうとする心が十分に育っていないことが考えられる。

そこで、「未来を力強く生き抜く、自立した生徒の育成」を今年度の学校重点目標とし次の五つを柱に「心」を育て「心」をつなぐ教育活動を進めている。

- ①何事にも「素直」「真面目」「一生懸命」な姿で、ひたむきに取り組む生徒の育成
- ②将来の理想の姿を思い描き、その実現に向けて努力を積み重ねる生徒の育成
- ③日々の自らの言動を振り返り、生き方を見つめ直すことができる生徒の育成



## ②松茂中プライド・プロジェクト

自らの力で夢を実現させる自立した人になるためには、自分に自信をもち、自らを磨く力が必要である。その実現への歩みは、個人の中だけではなく、集団の中で培われていくものである。本プロジェクトは生徒の自立的な活動をめざし、生徒自身が学校や仲間を見つめ、その課題や改善策を考え、よりよい学校づくりに参画する意識を醸成するための活動である。生徒会を中心に、学年リーダー会や部活動キャプテン会議においてアイディアを出し合い、学校改善に向けて具体的に活動に移した。

### ・松茂中公認キャラクター「まっちゅん」の作成

全校生徒からアイディアを募集し、生徒会で候補を絞った後、投票で決定したのが「松茂中公認キャラクターまっちゅん」である。キャラクター作成の目的は、愛校心の涵養と所属意識の高揚であり本校の生徒であることへの誇りや自信につなげることである。

### ・学年リーダー会

学期の始めや修学旅行や職場体験など、機会に応じて学年リーダー会を開いている。リーダーとしての決意や活動を終えて自分自身が成長したところやまわりが成長した点などをその都度振り返らせている。時には、リーダー会で



まっちゅん

行った活動を他の生徒たちにも見えるように掲示したり、学級でリーダーが発信したりする場面も設けている。

また今年度途中から授業の前後の「あいさつ」を改めて見直し、形態を統一した。形だけでなく、なぜ「あいさつ」が大切なのかということから考えさせ、継続させる取組を現在も行っている。普段は学年別にリーダー会を行っているが、今回の活動では全学年のリーダーが集まり会議を行った。

また、一昨年の宿泊活動から「集団行動」というプログラムを行っている。班のリーダーが当日までに集団行動の内容を練習・習得し、当日班員に指導して実践に移すというものである。班のリーダーに内容を教えるのは、先輩のリーダーであり、うまくできるポイントや班員への伝え方等のアドバイスをしている。横のつながりだけでなく、縦のつながりも意識をして活動を行っている。リーダーとしての白覚や責任感がさらに深まると考える。

現在は「敬語について考える」をテーマとして、各学年が同一歩調でその改善に取り組んでいる。

・部活動キャプテン会議（校歌を歌おうプロジェクト）  
仲間意識や所属感を高めるために部活動で何ができるか



学年リーダー会

を話し合い、具体的実践案として出されたのが校歌を歌おうプロジェクトである。校歌は学校にとって、その校にしかない宝であるという誇りをもって校歌を堂々と歌えるようにするためにはどうするかを考え、各部で部活後の練習日を決めて校歌を歌っている。中間発表会なども設け、各部活動で互いに意識を高め合いながら活動を続けていく。この取組はお互いが認め合える集団づくりになると考える。

③ ゆめ・ミライ塾の開催

「人口減少」「災害列島」という困難とも呼べる課題や「Society5.0」「人生100年時代」の到来等、「未知の世界」が眼前に広がる時代を迎え、近未来の社会を子供たちが力強く生き抜いていく力をつけるためには、これまでの既成概念にとらわれず、様々な「人・こと・もの」からのアプローチをする必要がある。

そこで、学校や生徒が抱える喫緊の課題の解決やめざす生徒像の実現さらには生徒一人一人が、「なりたい自分」に近づくことができる底力を身につけるために「松茂ゆめ・ミライ塾」を実施している。



部活動キャプテン会議



ゆめ・ミライ塾山本文子先生

〔令和元年度の講師〕

○山本文子氏（助産師十二月二十日実施）

演題「輝くいのちのために」

○新井栄次氏（株式会社ときわ料理長一月二十九日実施）

演題「幸せと感動」

○大嶋啓介氏（株式会社てっぺん塾代表二月二十一日実施）

演題「夢を大切に生きる生き方、仲間を大切に生きる生き方」

○上田直樹氏（あーすガイド代表三月十日実施）

演題「挑戦から見えた世界」

④ ボランティア活動の実践

・アルミ缶回収百万個大作戦

松茂町ボランティア団体「はあとふる松茂」の協力により二〇〇六年からアルミ缶回収に取り組み、その収益金によりベトナム南部のタンソン村の校舎や図書館の建設に協力してきた。現在もこの活動は全校生徒のボランティア活動として受け継がれ、本校の伝統となっている。

・児童館ボランティア

生徒会専門委員会（生活委員会と人権委員会）のメンバーが、放課後町内の児童館に行き、児童の



生徒会ボランティア



児童館ボランティア

宿題を見たり、一緒に遊んだりしながら小学生との交流を図っている。また、児童館祭りにも積極的に参加している。

#### ・地域行事でのボランティア

ボランティア委員会では、毎年秋に開催される「松茂町スカイフェスタ」に参加し、受付や児童・園児の遊びの補助などを行っている。また、放課後、福祉施設との交流も行っている。

#### ・「国際交流体験のつどい」への参加

町役場主催の国際交流事業の一環として、月見が丘海浜公園を会場として、外国の方々と餅つき、コマ回し、福笑い、凧揚げ等日本の★★★を一緒に体験し、日本の文化を自らも体験しながら様々な国の方々と交流を深めている。

#### ・「松茂中掃除に学ぶ会」の開催

徳島掃除に学ぶ会の協力を得て、今年度より生徒・教職員・保護者から参加を募り実施した。トイレ掃除を通して自分たちの「心の荒み(すさみ)」と「社会の荒み(すさみ)」をなくすとともに、五つの目的(謙虚な人・気づく人・感動の心・感謝の心・心を磨く)の実現を目指している。

#### (二) 第一学年の取組

#### ①障がい者福祉施設訪問

校区内の「障がい者福祉施設」を訪問し、交流を行っている。交流を通して「楽しい」「うれしい」気持ちを共有する中で、人を大切に、よりよい関係を築くためには何が必要なのかを学ぶことができています。

#### ②エンカウンターやソーシャルスキルトレーニング

心の交流づくり、規範意識や社会性の向上をねらいとして、学年や学期のはじめ、学校行事の事前学習において積極的に取り入れ、人とのつながりを意識し、自己実現していく力の土台づくりを行っている。

また、職員室には誰もがいつでも活用できるように、目的に添った様々なプログラムを用意し、ワークシートや道具を置くコーナーを設けている。

#### (三) 第二学年の取組

#### ①職場体験学習の実施

本学習の目的として

ア 社会で働く人々への聞き取りや職場体験を通して、労働の意義について考える。

イ 自己の将来に夢や希望を抱き

その実現を目指す意欲を高める。

ウ 校外活動を通して社会の一員としてのルールやマナーを身につける。

エ 職場や地域の人々とのふれあいを通して、地域社会へ



国際交流体験のつどい



職場体験学習

の理解を深めるとともに地域社会の人たちに中学生の実際を理解してもらおう。

オ 自分の職業に誇りを持って働いている人たちの姿からすべての職業が尊いということを知る。

カ 職場体験学習をやり遂げたという体験を自信にするとともに、指導していただく過程で自分自身を認められる喜びを感じる。

等を掲げ、松茂町内事業所で職場体験を行っている。今年度は、事前学習としてNTTグループテルウェル西日本株式会社マナー部の講師をお招きし、社会人としての基本マナーを学んだ。

②次世代型キャリア教育教材「エナジード」の活用

大学入試で「自分の考え方を立案し、表現する力」を重視する流れが進む一方で、国立青少年教育振興機構の「高校生の生活と意識に関する調査報告書」では大多数の生徒が「自分はダメな人間だ」「人の意見に流されやすい」と感じている傾向にあるというデータが出ている。本校の生徒も同様の傾向があり、自己有用感の高揚と自らの意志をしっかりとつことが求められる。入試だけでなく、生徒がこの先の人生で困難に直面しても、自分自身の手で未



エナジード資料

来を切り開いていける力を身につけるために本教材を活用することを決めた。具体的には、

- ◇今、予想されている未来を把握する
- ◇社会・未来・海外・他者視点とステージを変え、ゼロから1を生む経験を繰り返し返す
- ◇自らの発案を形にし、肯定的なフィードバックを受けられることで『やればできる』という感覚を手に入れる

というプロセスを経験させ、キャリア教育における自己理解・自己管理能力の育成を目ざしている。

③阿波人形浄瑠璃の鑑賞および体験

ふれあい座・松茂町歴史民俗資料館の職員の方々の協力により、伝統芸能を実際に鑑賞することで、関心をもちさらに深く知ろうとする心やこれからの担い手としての意欲を高めることを目的としている。

④「おとなカタログ」

キャリア教育出張授業として「おとなカタログ」を活用した。総合的な学習の時間（二時間）を使い、生徒たちが地元徳島の大人（キラキラ大人）と出会い、語り合うことで、仕事や人生について身近に感じ、学ぶことで将来の夢への希望をもつことをねらいとして行った。中学校卒業



人形浄瑠璃

後、自分の価値観（ものさし）で、より自分らしい人生を選び歩む力を身につけることができればという願いも込められている。中学年代の感性の豊かなこの時期に、楽しくに明るく働く大人の存在を知ることが「大人になるっていいなあ」という感情につながると考える。

#### (四) 第三学年の取組

##### ① 「白菊特攻記念館」訪問

町内の白衛隊敷地内にある白菊特攻記念館を訪問し、戦争や平和、生き方について考える地域教材として白菊特攻隊について学習している。身近なところに特攻隊として戦地に向かった人たちがいたことや、その人たちが同年代の若者であったことを学び、戦争の悲惨さを感じるだけではなく、人としての生き方やこれからの自分の生き方について考えを深めることができた。

##### ② 松茂町夢フライト国際交流事業への参加

本事業は、町主催で平成八年からスタートし、国際化の進む中で、これらの松茂町を担う中学生を海外派遣し、国際的視野を広めるとともに、訪問国において各種の交流活動を行い、国際化に対応した人材を育てることを



夢フライト事業



白菊特攻記念館

目的としている。

今年度は夏期休業日中に十九名の生徒および引率教師一名が参加し、オーストラリアのケンプシーハイスクールへの体験入学をはじめファームステイ体験やゴールドコースト市内観光等を行った。

#### (五) 次年度に向けた取組

##### ○ ゆめ・ミライ実現日記「藍空」の作成

このゆめ・ミライ実現日記は「心づくり」に重点を置き、単に目的・目標を達成するのではなく、自分の心を自分で育ててほしいという願いから作られている。日記を書き込むことで、目的・目標達成の過程で、同時に白らの心を育てることもめざす。次の項目は具体的実践の五本柱である。



ゆめ・ミライ実現日記

- ① 「心を使う」考えて未来を描き、自分のめざすイメージをはっきりと持つ。
- ② 「心をきれいにする」清掃、奉仕活動、エコ活動、社会に貢献する。
- ③ 「心を強くする」成長のためのルーティン行動を続ける。
- ④ 「心を整理する」毎日の振り返りの日記を書く。成功の準備をする。未来思考。



⑤ 「心を広くする」ありがとう。あなたのおかげ。感謝の気持ちを持つ。

○小中一貫キャリア・パスポートの作成

児童生徒の次年度からの活用に向けて、松茂町内小中学校の教頭会において検討・作成した。小中学校の九年間を通して、集団の中で自己実現を図る力が養われるよう一貫した教育の柱を設けた。松茂町版キャリア・パスポート「ゆめ・ミライ実現ノート」を活用し学校での過ごし方や人間関係の築き方等について小中の教職員が共通の観点で児童・生徒に関わることで正しく判断し、行動できる人材の育成をめざすとともに、中一ギャップの解消に努める。



キャリア・パスポート

四 つながりを意識した教職員の研修

校内の研究授業後の研究会は、活発な意見交換が行えるようにワークシヨップ形式で行っている。授業参観時に良かった点や参考になった内容を青色、気になった点や課題を黄色、具体的な改善点をピンク色の付箋に記入し、各班に分かれて授業研究用シートに貼りながら意見交換を進め

ている。授業研究シートには、ア 生徒の心が動く中心発問  
イ 自分の言葉で考え、自分の言葉で発表する  
ウ 友達の発表を聞き意見をつなぐ  
エ 授業形態および手立ての四つの視点に絞りまとめている。

教職員もつながりの中で自己の

キャリアアップを図ることができており、研修後はワークシヨップの結果をデータ化し、教職員全員で共有している。

五 今後の課題

これらの取組を通して、教職員のキャリア教育への意識の高まりは、大きな成果である一方で、それらが持続可能な取組であるかどうかを精査するために、校内の学校運営改善委員会を通して、教職員集団で議論し、より良い実践方法を構築する必要がある。また教職員の異動等により、学校の教育力が低下することなく、十年後の本校が目標とする目指す学校像であり続けるためにも継続的かつ計画的な取組が必要である。



生徒合唱



職員研修

そのためには「基礎的・汎用的能力」をたたき台にしなから、目の前の子どもたちに「卒業時点でできるようなってほしいこと」をより具体的に設定することが肝要であり、これこそがキャリア教育の実践における成否を左右するものである。そして、実践する活動の目標が具体的なものであれば、評価も決して難しくはない。さらに各教科等におけるキャリア教育とのつながりをわれわれ教師が理解することが重要である。例えば、子どもや教師が「こんなことを学んでも世の中では何の役にも立たない」と考えながら学習するよりも「今学んでいることは社会に出たときに、具体的に〇〇の場面で使うことができる」という意識で取り組んだ方が、学びの場面で間違いなく意欲的な姿が見えると考ええる。それは十年後、二十年後の地域や徳島県を考えたときに確実にキャリア教育における学校での学びが社会を支えることにつながる。様々な職種で働く現場では、「学校での学び」が常に活用され、私たちの生活を支えているという事実を教師が伝え続けることで、学びへの意欲が持続的に高まるのではないか。そして、このような意識を教職員が常に共有できるかどうかが課題となる。

## 六 おわりに

「キャリア」とは、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出し

ていく連なりや積み重ねであると定義(二〇一一、二〇一二) 文部科学省「キャリア教育の手引き」されている。

また、新学習指導要領に新たに設けられた前文には、「多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と明記されている。さらに成人年齢が十八歳に引き下げられることも踏まえ、卒業時に「何ができる」のかを考え、未来に向け自分なりの準備ができる生徒の育成を旨とした具体的な実践目標が必要であり、「何のために学ぶのか」という学びの行く先を問い続けることが、持続可能な社会の創り手へとつながっていくのではないかと考える。

(文責―松茂中学校プライド・プロジェクト班編集) 参考文献

- ① 文部科学省、中学校学習指導要領(平成二十九年告示)
- ② 国立教育政策研究所、「キャリア教育」資料集 研究・報告書・手引編(平成三十年度版)
- ③ 独立行政法人教職員支援機構オンライン研修校内研修シリーズNo 41 「キャリア教育の実践」筑波大学人間系教授 藤田晃之編)
- ④ 徳島県キャリア教育推進指針Ⅱ「とくしまの未来を切り拓くキャリア教育」(平成三十一年 徳島県教育委員会)
- ⑤ 文部科学省キャリア教育の手引き(二〇一一、二〇一二)